岡島冠山の唐話の借用

――洒落本『和唐珍解』中の語彙を通して――

李　　玉

A study of the Borrowing of Okajima Kanzan's Towa in the Wato Chinkai

LI Yu

Since the middle ages, written texts based on the Book of Songs, The Analects of Confucius, Mencius, University, Anthology, and Collection of Bai's Anthropology have been an important way for Japanese to learn towa. In Japan, there is a wave of learning towa. At first, when towa was introduced to Japan during the Ming and Qing dynasties, it was a foreign language that was difficult for the local public to understand. However, the study of towa was all the rage after learning from Japanese scholars, Tang Tongshi, and local people. This article attempts to analyze the borrowing of Okajima Kanzan's towa in the "Wato Chinkai", on the basis of the advance researches.

Keywords: Towa, Okajima Kanzan, The Sharebon, Wato Chinkai

キーワード：唐話、岡島冠山、洒落本、和唐珍解

はじめに

江戸時代の洒落本『和唐珍解』の作者唐来参和は、本姓は加藤、通称は和泉屋源蔵であった。元高家衆の家臣であったが、天明年間町人となり、本所松井町の遊女屋和泉屋の婿となった。他の作品に、名作とされる『三教色』がある[1)]。

『和唐珍解』一巻は1785（天明５）年に刊行された。この作品は、中国人商人と日本人唐通事との、日本唯一の異国通商の地であった長崎の丸山での遊興の様子を描写している。登場人物を「国性爺合戦」[2)]

１）日本名著全集刊行会編『日本名著全集』「江戸文芸之部」第12巻（洒落本集）（日本名著全集刊行、1929年）、54頁。

２）『国姓爺合戦』（『国性爺合戦』）は、近松門左衛門作の人形浄瑠璃。のちに歌舞伎化された。全五段。
1715（正徳５）年、大坂の竹本座で初演。江戸時代初期、中国人を父に、日本人を母に持ち、台湾を拠点に明朝の清朝からの復興運動を行った鄭成功（国性爺、史実は国姓爺）を題材にとり、これを脚色。結末を含め、史実とは異なる展開となっている。和藤内（鄭成功）が異母姉の夫・甘輝との同盟を結ぶ「甘輝館」が有名。初演から17ヶ

から借用し、中国人商人を李蹈天、日本人唐通事を和田藤内、遊女を梅檀などとしている。彼らの会話には中国語で書かれている部分があり、その横には中国語の元である日本語が付けられている[3)]。

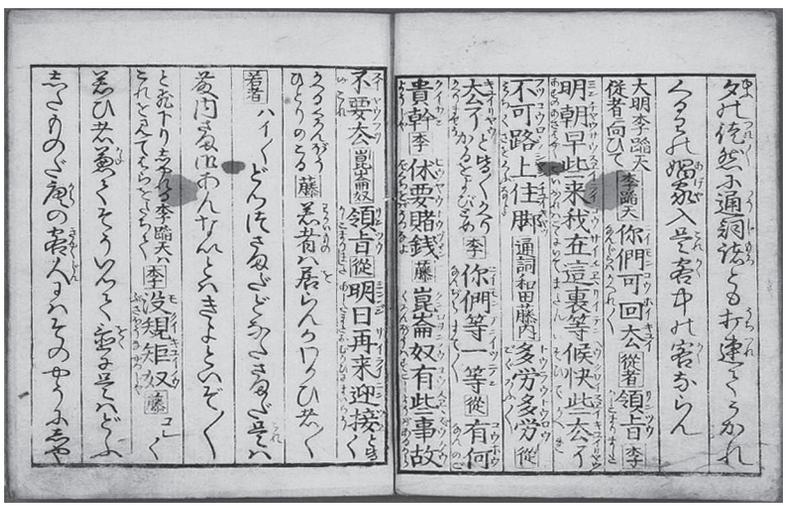

図１　『和唐珍解』本文

但し、近世中国語の受容の立場からの『和唐珍解』に関する研究は少ない。本論は、先行研究を踏まえて、『和唐珍解』の会話部分における中国語について考察したい。

一　先行研究及び評価

『和唐珍解』に関する評価や先行研究は管見の限り、以下の三つがある。

1　十文字舎自恐、菊屋蔵伎、並木新作「戯作評判花折紙」神田通新石町（江戸）、中村善蔵　享和２年（1802）

2　日本名著全集刊行会編.『日本名著全集』.「江戸文芸之部」第12巻（洒落本集）. 日本名著全集刊行会. 昭和４年（1929）刊行

3　小池藤五郎. 新発見の史料と洒落本「総籬」.『国語と国文学』1959年３月号

『和唐珍解』についての言及で、最も早いものは同時代の「戯作評判花折紙」の実悪部に、見られる

「丸山までのみちがなんもく」、「唐音をつかふおも入れ、もつともしんじつ、禅師伝来のとう音もにて、唐和纂要などの、きりぬきはもちいられませぬ所が、大だての仕打ちでござる。」「なんでも唐音と俗語、よみわけるところに骨がおれる。そして骨折てよんでも、さしてやくにたゝねば、ど

月続演の記録を打ち立てた。

3）日本名著全集刊行会編『日本名著全集』「江戸文芸之部」第12巻（洒落本集）（日本名著全集刊行、1929年）、51頁。

うでも、みてはすくなかろう。」

という評判である。[4)]

山口剛は『江戸文芸』の第十二巻『洒落本集』[5)] に『和唐珍解』での李蹈天の丸山の揚屋遊びは作者の空想であり、滑稽の趣向は例の江戸の廓に慣れぬ田舎客のおかしさを唐人の上に移した、また、田舎客の田舎言葉の滑稽を唐音で現すことにあったと述べている。この趣向には手本があり、歌謡や一部分の小曲の出自は1771（明和８）年の『四鳴蝉』[6)]（亭亭亭逸人、堂堂堂主人訓）の「曦鎧記替身踊場」の「日月互明懸配天」や「移松記」の「蝶也亦何知菜」などであると解明している。

小池藤五郎は『新発見の史料と洒落本「総籬」』[7)] で、山口剛の論考を踏まえ、作品中の小曲「一更天」の出自は『唐話纂要』の巻五「小曲」中の「一更天」であることを指摘している。そして、同時代の中国語学習書との比較を視野に入れ、個別の例をあげて、『和唐珍解』に用いられた中国語の多くが『唐話纂要』、『唐音雅俗語類』、『唐訳便覧』、『四鳴蝉』四書から借用されたものであると論じている。また、「発音の表記を丸写しのくせに誤り、書き流しにしてある。」[8)] ことから、作者は中国語を作品の飾りにする態度を表していると主張している。そして、唐来参和は『和唐珍解』を書くときに、「上述の諸書より、先ず適当な訳語つきの句を拾い出して置き、それをあちこちと点綴して、創作を完成したかもしれない。」[9)] と提示している。

以上『和唐珍解』の中国語に関する研究では、『和唐珍解』の中国語歌謡や小曲は全て『四鳴蝉』と『唐話纂要』から借用されたことを明らかにしている。会話中の中国語の出自に関しては、個別の例で岡島冠山の唐話資料『唐話纂要』、『唐音雅俗語類』、『唐訳便覧』と密接な繋がりを持っていたことが指摘されており、『和唐珍解』と岡島冠山の資料との関係が重要視されている。

但し、『和唐珍解』の中国語に関する考察といっても様々な角度から接近することが可能であり、対象範囲の絞り込みが必要となる。本稿では、小池藤五郎の論述を踏まえ、『和唐珍解』の本文の会話部分における岡島冠山の唐話資料からの引用の特徴に言及する。引用された内容と岡島冠山の唐話資料との間

４）小池藤五郎「新発見の史料と洒落本「総籬」」（『国語と国文学』、1959年３月号）、54頁。

５）日本名著全集刊行会編『日本名著全集』「江戸文芸之部」第12巻（洒落本集）（日本名著全集刊行会、1929年）、54-55頁。

６）及川茜「都賀庭鐘《四鳴蝉》試論――二つの言語の狭間で」（東京外国語大学 大学院教育改革支援プログラム「高度な言語運用能力に基づく地域研究者養成」イタリア・ワークショップ2008年11月）、３頁。

1771（明和８）年に刊行された四作の戯曲から成る『四鳴蝉』は、謡曲や浄瑠璃を中国戯曲の体例に沿って中国語に翻訳した作品である。四篇の作品タイトルとそれぞれの原作は以下の通りになる。

「惜花記（ハナヲオシムノキ）」.....謡曲「熊野」

「扇芝記」.....謡曲「頼政」

「移松記（ネビキノマツノキ）」.....浄瑠璃（歌舞伎）「山崎与次兵衛寿の門松」道行部分

「曦鎧記（アサヒノヨロヒノキ）.....浄瑠璃「大塔宮曦鎧」三段目「若宮紅梅の短冊」「身替り音頭」

７）小池藤五郎「新発見の史料と洒落本「総籬」」（『国語と国文学』、1959年３月号）、51-62頁。

８）同上52頁。

９）同上54頁。

に存在する相違点について詳細に比較し、検討したい。

まず、『和唐珍解』の会話中の中国語と岡島冠山の唐話資料の類似語を拾い上げていき、さらに比較検討することで『和唐珍解』の岡島冠山の資料からの借用の実態を捉えたい。

二 『和唐珍解』と岡島冠山の唐話資料との比較検討

江戸時代における、岡島冠山の唐話資料は中国語に興味を持っている知識人の間に大流行した[10)]。「戯作評判花折紙」の評価と小池藤五郎の考察から見れば、唐来参和も例外ではなく、それらの書物に影響された。そこで本稿では『和唐珍解』の会話の各条目の出典の調査を試みた。

『和唐珍解』の会話に出ている中国語について、岡島冠山の唐話資料と共通する言葉が約136句あるが、各書の被引用回数は均等ではない。また、『和唐珍解』と岡島冠山の唐話資料に共通するが、両者の表現が異なっているところ、岡島冠山の唐話資料にあるが、『和唐珍解』で省略されているところ、また岡島冠山の唐話資料にはないが、『和唐珍解』で増加されるところも見られる。以下、両方のテキストを並べて、対照的研究の角度から出発して、岡島冠山の各唐話資料の引用から『和唐珍解』の完成に至るまで唐来参和の手でいかに工夫されたのかを明確にしたい。

1

まず、『和唐珍解』の会話中の中国語のうち、岡島冠山の各唐話資料からそのまま引用した可能性が高いものを以下の表で示す。

表１ 『和唐珍解』と『唐話纂要』と一致している語句

	語句	唐話纂要	和唐珍解
1	再坐咲談。	マソツト。イテハナセ	まつといてはなせ
2	今日天色好。	今日ハ。テンキヨシ	けふはよいてんきだぞ
3	今日暴始相見。	今日。初テ逢ツタ	けふはじめてあふた
4	初相見。	ハシメテアフ	はじめてあふた
5	拿茶来。	チヤモテコイ	ちやをもつてきてのませや
6	去了来。	行テ来レ	いつてこい
7	擔火来。	火モテコヒ	ひをもつてこい
8	那廂坐。	アチラニスハレ	あちらとでなさい
9	錯過了。	アヤマツタ	しそんじて

10）石崎又造『近世日本における支那俗語文学史』（清水弘文堂書房、1940年）172-173頁を参考にした。

「江村北海が「授業編」巻三

唐音ノ吾邦ニ行ハル丶事、元和ヨリ以前ハ姑ク置、正保ノコロ朱之瑜。陳元贇ナド帰化ノ後、其人ニシタシカリシ人ハ、ヤ丶唐音ニ通ジタル人アリケレドモ、イマダ汎ク世間ヘ流布セズ。余幼穉ノ比マデハ唐音ハ長崎ノ譯官・黄檗ノ僧徒ナラデハ知ラヌ事ノ様ニ人々オボエテ、京師ナドニ是ヲ主張スル人マレナリシガ、岡島援之長崎ヨリ京大坂ヘノボリ來リ、江戸ヘ赴キテ其業次第ニヒロマリ 、唐話纂要・雅俗語言ナドイフ類ヒノ書ドモ、多ク梓ニチリバメ世ニ行ハル。」

10	揪住他。	カレヲトラヤエル	かれをとらまへん
11	個裡来。	コヽニコヒ	こゝへこひ
12	責發他。	彼ニカネヲクレテヤル	かれにかねをくれてやらん
13	為什麼。	ナゼナ	なにゝする
14	使不得。	ソフハケシヌ	そうはさせぬ
15	使得了。	ソフシタガヨヒ	そうしたがい
16	價錢賤。	ネカヤスヒ	やすいものだ
17	有何貴幹？ 有何貴幹。	何ノ御用アリヤ	なんのごようじや なんだなんだ
18	最愛彈唱。	シヤミセンヤ。ウタヤ。ナドヲスク	さみせんやうたなとをすく
19	喧嚷得緊。	イカフヤカマシヒ	いかふやかましい
20	休要囉嗦。	ヤカマシク云フナ	やかましくいふな
21	大酔酩酊。	大ニヨフタ	おゝきによふて
22	宿酒未醒。	二日ヨヒガマダサメヌ	まだふつかよいがさめぬ
23	他是海量。	彼ハジヤウコ	かれはじやうごだよ
24	敢領尊杯。	オサカツキヲイタヽカシ	ちとおさかつきをいただかん
25	休要賭錢。	バクチヲウツナ	ばくちをうつなよ
26	感激不盡。	イカフアリガタイ	ありがたい／＼
27	喫些酒麼。	酒ヲマイル	さけはなるかな
28	苦辭不脱	シキリニジスレトモノカレヌ	しきりにじすれとものがれぬ
29	請勿生疑。	ウタカヒヲオコスナ	うたがはねへがいゝ
30	滿灑一杯。	マンマント一盃ツグ	まんといつはいつけ
31	青春多少。	オトシハ何ホトゾ	としはいくつだの
32	扭轉身来。	身ヲネチカエル	みをそむけるやつさ
33	不敢説謊。	ウソヲイハヌ	うそはいわぬ
34	數一數二。	一カ二カトアラソフ	一か二かとあらそう
35	你認得他麼。	汝彼ヲ。ミシリタルヤ	なんぢかれをごぞんじか
36	我竟不認得他。	我曾テ彼ヲ。ミシラズ	おれはあれはだれだかしらねへ
37	專做幫閑過日。	專ラ。タイコモチト成テ世ヲ渡ル	もつはらたいもちとなつてよをわたる
38	休要笑話我。	我ヲ。ワラヒモノニスルナ	じやすいはよしやれ
39	把宦[11] 路當人情。	シフトノ物デ。アイムコ。モテナスト云フ	しうとのものであいむこくらいだが
40	没道理。	ヒダウナコト	ごむりだごむりだ
41	敬你一杯。	汝ニ盃サスヘシ	いつはいさそう

表１に示したように、『和唐珍解』本文の会話に出ている語句と『唐話纂要』の語句とは、一致しているものが三字語から、六字語まで、41句がある。そのうち、三字語は14句、四字語は20句、五字語は３句、六字語は４句ある。

『唐話纂要』から引用された語句は初対面での挨拶と日常的な出会いの場合でよく使う会話が多く、使う人を選ばない語句であると言えるだろう。付された日本語から、適切な語句が選ばれていると判断す

11）『唐話纂要』の原文は「宦」ではなく「官」と書かれている。本論では中国語の表現の異表記は区別することなく扱う。すべて同一のものと見なす。これにより多少の情報を失うことになるが、手書きの筆記体ではしばしば異表記間の関係が不明瞭で、区別しようにも限界があるのである。

ることができるが、次に示すように適切とは言えない語もある。

扭轉身来。不要腦不要腦。（みをそむけるやつさ。はらたつなはらたつな）

『唐話纂要』では「扭轉身来」の日本語訳が「身ヲネチカエル」であり、現代日本語で言えば「睡眠時の姿勢が悪くて、首などの筋を痛める」の意味であるが、中国語「扭轉身来」の意味「話者から見て、自分の方に体を向けること」とずれがあると思われる。一方、『和唐珍解』では、日本語が「みをそむけるやつさ」であり、「背を向ける」という意味なので、ここにもずれがあると思われる。

一般的に、動詞の後ろに置いて、前の動詞の動作の方向を表す補語を方向補語と言われている。例「扭轉身来」の「来」は方向補語であると考えられる。方向補語の「来」と「去」の方向性は次のように表すことができる[12)]。

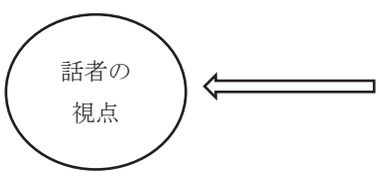

図２　方向補語「来」

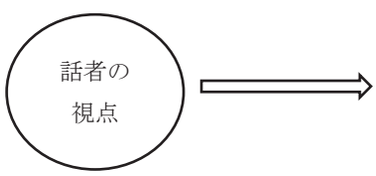

図３　方向補語「去」

図２、図３で示すように、方向補語「来」は自分の方に近づいてくることを表し、方向補語「去」は自分のところから遠ざかっていくことを表す。「扭轉身来」は話し手から見て、自分の方に体を向けることを表す。それに対して、「みをそむける」というのは話し手から見て、逆の方向に体を向けることである。

つまり、現代中国語では、「みをそむけるやつさ」に対応する中国語は「扭轉身去」となり、「扭轉身来」とはならないのではないだろうか。そのずれをさせた可能性の一つは、作者が中国語方向補語「来」と「去」によって、話者の視点から見て、動作方向が逆になってしまうことに気付けていないことがある。もう一つの可能性としては、岡島冠山の資料には「扭轉身来」しかないため、それをそのまま取り込んだことであると考えられる。

表２　『和唐珍解』と『唐訳便覧』と一致している語

	語句	唐訳便覧	和唐珍解
1	沒什麼款待有罪有罪。	ナニノゴチソウモ申サズ。ブチヤウハフニ候	なにのごちそうももうさずぶてうほうにござる
2	氣苦不迭。	ムネンセンバン	むねんせんはんた
3	大酔酩酊。 舌頭也不肯轉。	大ニ酔テ。舌モマハラヌ	おゝきによふて したもまわらぬ
4	好好説一聲。	ヨロシク云フテクレヨ	よくそふいつてくんな
5	不敢説謊	ウソハ云ハヌ	うそはいわぬ

12）http://chugokugo-script.net/bunpou/ 方向補語.html を参考にした。

6	異様好看。	カクベツミコト	かくべつみごと／＼
7	僑居冷淡。過日如年了。	リヨシユクサビシフソ。一日ヲクラスコト。年ノ如シ	りよしゆくのさみしさはいちにちかくらすがいちねんのやうだ
8	初始相會不得無禮。須要小心些。	ハジメテノ。サンクハイニ。ブレイヲスルナ。チトツヽシメ	はじめてのさんくわいにぶれいをするなちつとつヽしめ
9	餘外有什麼客人。若太拘禮。我要辭了不敢去。	ホカニタレゾ客ガアルカ。アナリキウクツナラバ。我ハ辞退ソ。マイルマヒト存スルナリ	ほかにたれぞきやくがあるかあまりきうくつならばわしはじたいしていくまいとおもふ
10	休做沒良心的事。	ムゴイコトヲスルナ	むごいことをするなよ
11	越急越不明白。	イソゲバイソグホド。ラチガアカヌ	いそげばいそくほどらちがあかぬ
12	走開去。休要在個裏纏繞	コヽニイテ。ジヤマニナルナ	のけくこヽにいてじやまになるなよ
13	初接高風　不勝欣躍。若蒙不鄙棄感謝不盡。	ハシメテオメニカヽリ。大悦仕候若イヤシメ。ステ王ハスンハ。忝ルベシ	はつにおめもじいたし　おうれしくぞんじますもしいやしめすて給はすはありがたうおざんすとさ
14	白日地等到幾時。	イツマデ。ウカ／＼マツコトゾ	いつまでもうか／＼とまつことだ
15	衣裳整齊。容貌標志。	イシヤウガキレイデ。スガタガウツクシイ	いせうがきれいですがたがうつくしくて
16	恐懼不過。	オソレ入ル	おそれいつた
17	苦哉苦哉。	ニガ／＼シキフジヤ。何トシタラバヨカロフカ	にが／＼しいことだ
18	像不像。比一比看。	ニタカ。ニヌカ。クラベテミヨ	にたかにぬかくらべてみや
19	香氣妙極。	ニホヒガ。イカフヨヒ	にほひがみやうだよ
20	不但香氣好。味道絶妙。	ニホヒノヨキノミニアラズ。アチハヒモヨイ	にほひのいヽばかりでもないあぢわひがみやうだ
21	飛也似奔将過来了。	トブガ如クニ。カケテキタ	とぶがごとくにかけてきつか
22	彼此難辨可否。	ドチラヲ。ドウトモイハレヌ	どちらをどうどもいわれぬ
23	多承厚款 感謝不盡	チソウニナリマシテ。カタジケナイ	ごちそうになりましたありがてへ／＼
24	少些拿来。不要多。	チツトモテモテキヨ。多クハイラヌ	ちつともつてきやおヽくはいらぬ
25	調理好。什麼東西都好喫。	リヤウリガヨイ。何モ皆ムマイ	りやうりがよくてみなむまえこと／＼
26	得罪我了我饒不得他。	リヨグハイヲ。イタシタカラハ。ユルスコトハナラヌ	りよぐわいをしたからはおれはゆるすことはならぬ
27	溫溫的好。不要大熱。	ヌルイガヨイ。アマリアツクスルナ	ぬるひがいヽあまりあつくするなよ
28	越鑷越生。我也厭了這個鬍鬚。	ヌケバ。ヌクホドパエル私モ此ヒゲニハ。アイタ	ぬけばぬくほどはへるおれもこのひけにはあきはてたよ
29	有趣得了不得。	オモシロフテドウモナラヌ	おもしろうてどふもならぬよ
30	此等歡喜事難再有了。	カヤウニヨロコバシキイハ。重テハアルマイ	かやうによろこばしきことはかさねてはあるまい
31	不勝戀慕。	レンボニタエヌ	こひしさのまヽ
32	列位在這裏。我豈敢占上坐。	レキレキコレニコザ候フニ。我豈上座ヲ占候ハンヤ	だんだんとこれにござるにおれがなにじやうざをするものだ。
33	最好。且請試用一盃。	ヅンドヨイ。試ニ一盃マイリ王ヘ	づんどよひこヽろみにいつぱいのみたまへ
34	怎様久不相見。	ナント。久シクアハヌ	なんと久しくあわぬの
35	僅著飲得。真個大海量。	ナニホドデモノム。大ジヤウゴナリ	なにほどでものむだいのじやうこだよ
36	黑地裏是個難走。	クラキ処ハ。アルカレヌ	くらいところはあるかれねへ
37	現金賣不賒的。	ゲンキンニウルカケニニハセヌ	げんきんならうろう　かけにはせぬ
38	沒有可怕的事。	コハイコトハナイ	こわいことはないよ
39	哥哥那裡去。	アニキドコヘ往キ候コトゾ	あにきどこへゆくぞ

40	角落頭房裏去睡一覺也好。	スミノヘヤニ行テ。一イキネタモヨカロフ	すみのへやへいつてひといきねたもよかろう
41	唱得妙端的是聲清韻美字正腔真另外好聽。	ウタウコト妙アリ。誠ニ声キヨク。韻ウルハシク。字タヽシク。腔ソロヒ。カクベツノ。キヽフナリ	うたふことがみやうでまことにこへがよくいんがうるわしくぢただしくふしそろひかくべつのきヽことだ

表２に示したとおり、『和唐珍解』の語句と『唐訳便覧』の語句とは、一致しているものは41句がある。そのうち30句はほぼ同一の日本語文が付されているが、意味は共通するが、両者の言い方が異なっているものは11句である。

表３　『和唐珍解』と『唐話便用』と一致している語句

	語句	唐話便用	和唐珍解
1	錯過了。	シソンジタ	しそんじて
2	宿酒未醒。	ヨイガマダサメヌ	まだふつかよいがさめぬ
3	忍耐不住。	カンニンガナラヌ	こたへられぬ
4	好好説一聲。	宜ク御中シクダサルベシ	よくそふいつてくんな
5	夜深了。	ヨフケタ	よがふけた

『和唐珍解』の語句と『唐話便用』の語句と一致しているものは『唐話纂要』、『唐訳便覧』より少なく、５語である。

以上のように、語句の一致状況を一つ一つ確認し、『和唐珍解』の本文の会話における岡島冠山の唐話資料に対する直接な受容の有り様を明らかにすることができた。一致している語句の長さや語数から見れば、『和唐珍解』が『唐話纂要』、『唐訳便覧』からそのまま借用した可能性が高い。また、長句の出典はほぼ『唐訳便覧』である。

２

一方、岡島冠山の唐話資料から言葉を借用する際、省略されている場合もある。これについて、表で示す。（複数の資料で同じ用語が出てくる場合は、『和唐珍解』の文と類似度が最も高い資料を出典の可能性が最も高いものとして提示した。）

表４　『唐話纂要』にあるが、『和唐珍解』で省略されているところ（省略箇所をゴシックで表示している）

	唐話纂要	日本語	和唐珍解	日本語
1	**我**要和你化拳。	我汝ト。ケンガ。シタヒ	要和你化拳。	こうとけんをしやう
2	**我今日可可的有件事。不敢從命了。**請免請免。	我今日ニカギリテ用事アリ仰セニシタカヒカタシ御免ヲ蒙シ	請免請免。	ごめんごめん

表４のように、『唐話纂要』にあるが、『和唐珍解』で省略されているところは２箇所である。１では、『和唐珍解』は主語としての第一人称「我」を省略している。２では、「請免請免」は、日本日常生活で

よく使われている「ごめんごめん」に対応する言い方である。

表５　『唐訳便覧』にあるが、『和唐珍解』で省略されているところ

	唐訳便覧	日本語	和唐珍解	日本語
1	列位早至等久了**請免請免**。	イツレモサマハ。早クオイテナサレテ。オマチビサシクゴザ侯ハン。御免シ／＼	列位早至等久了。	いづれもさまはおいて、おまちひさしかろう
2	煎個燭心再明亮些**不然我老人家看不見細字**。	ロフソクノ。シンヲキリテ。マツトアカルクセヨ。然ラザレハ。ワレラガ如キ老人ハ。細字ガ見ヘヌ	煎個燭心。再明亮些。	らうそくのしんをきつてもつとあかるくしや
3	不差麽**差了不便須要仔細**。	チガイハセヌカ。チガエハワルイゾ。ネンヲイレヨ	不差麽。	ちがいはせぬか
4	狡猾的人**不可吃他騙**。	オホチヤクモノジヤ。彼ニダマサレルナ	狡猾的人。	を、ちやくものめ
5	明朝**你**早些来我在這裏等候**你**。	アスノアサ。汝ハヤク来レ。我ハ此処ニ在テ。汝ヲマツベシ	明朝早些来。我在這裡等候。	あすのあさはやくこいおれはこ、にいてまたん
6	**灑得滿滿便**賭氣飲了好個海量。	マン／＼トツイテ。ヒトイキニノンダ。アツハンノジヤウコカナ	使賭氣飲了好個海量。	ひどいきにのんだあつはれのぢやうごだよ

表５で示したように、作者が『唐訳便覧』から、余分なものを省略して、自分が使えたい中国語部分だけを切り取って使っていることではないであろうか。

表６　『唐音雅俗語類』にあるが、『和唐珍解』で省略されているところ

	唐音雅俗語類	日本語	和唐珍解	日本語
1	（俗語類）講什麽**話**。	ナニヲ云フゾ	講什麽。	なにをいふか

以上に挙げた省略箇所からは、作者が岡島冠山の唐話資料の言葉を使っているが、そのまま取り込んではおらず、岡島冠山の資料から必要な語句を抽出していることが分かる。

3

そして、岡島冠山の唐話からの語句の借用は、単にそのまま借用するのではなく、手間をかけて行われている場合もある。日本語の部分に合わせるように、付け足された箇所を、それぞれの資料で確認したい。（付け足された語句をゴシックで示す。）

表７　『和唐珍解』と『唐話纂要』

	唐話纂要	日本語	和唐珍解	日本語
1	那裡去。	ドコニユクカ	**梅檀婦人**那裏去。 **梅檀**那裏去。	せんだんふじんどこへいつたか せんだんはどこへいつたぞ
2	不敢當。	イタミ入ルト云意	**我**不敢當　。	おれがあいてにはならぬ
3	倦了些。	少シクタビレタ	**我也**倦了些。	おれもたいくつした

4	沒規矩。	ブサハフナ	沒規矩**奴**。	ぶさほうなやつじや
5	罷休了。	ヤメタ	**且**罷休了。	まわまわやめよ
6	准不准。	ガテンカガテンナヒカ	**怎麼樣**。 准不准。	どんだどんだ がつてんかがつてんでないか
7	做戲文。	オトリシオドル	**昆侖奴来**做戲文。	くろんぼうおどりをおどれ
8	一味裡。	イチヅニ	**他是**一味裡**用心學日本小曲**。	かれがいちすいにせいをだして
9	強買了。	オシガイニシタ	**我**強買了。	おれがむりにかうたから
10	休要客套。	キヤクシンニスルナ	**娘子**休要客套。	おいらんきやくじんにしなさんな
11	有些事故。	少シ用ガアル	**昆侖奴**有些事故。	くろんぼうはすこしようがあるから
12	走将過来。	コチニキタレ	**所以特地**走将過来。	わざわざきたのさ
13	爛醉如泥。	ドロノ如クニヨヒクサツタ	**阿阿**爛醉如泥。	ああどろのごとくよふた
14	手藝極多。	ゲイガ多イ	**他是**手藝極多。	かれはげいがおゝいから
15	備細説知。	イサイニ。申シキカシム	備細説知**他説道**。	いさいにはなしたらかれがいふには
16	十分嫖致。	イカフ。ウツクシヒ	**這個雛妓**十分嫖致。	このこはいかふうつくしいどふもならぬ
17	在個裡玩要。	ココニ井テ。アソベ	**新来的**在個裡。玩要**則箇**。	いまきたこゝにいてあそびなせへ
18	枉費了錢財。	錢財ヲムダヅカヒシタ	**好**枉費了錢財。	よくぜにかねをむだつかいする

表７で示したように、『唐話纂要』の語句に新たに足されたものは、次のように分類することができる。

① 単一の成分の添加

作者は日本語に基づいて、それに対応する中国語文の主語、目的語、疑問詞、副詞を添加している。１、２、９、10、11、16では原文の、述語の前に置かれる主語を添加している。４は「沒規矩」を修飾語として、被修飾語「奴」を添加している。５では副詞「且」を使うことによって、容認の気持ちを示し、「しばらくやめた」という意味を表現したと思われる。６では疑問詞「怎麼樣」を添加して、綿布の値段交渉の結果を尋ねていることをを表す。13では、語気詞「阿阿」を用いている。18では、副詞「好」を用いることによって「よくぜにかねをむだつかいする」という口調の強さを表し、８、14は「かれ」に対応されている「他」を主語として付け足している。

② 複数の成分の添加

３では主語「我」と「也」を添加して、「おれもたいくつした」を意味している。７では、「来」が付け足されており、中国語としては自然だが、日本語は「来る」という語が用いられてはいない。12において、「所以」の前に理由を表す部分があるから、ここで「所以」が用いられて、結果を表す。「特地」は「～のさ」を言い表している。17では修飾される名詞「人」を省略し、「新来的」の形で名詞性成分を作って、「いまきた」を示す語として使われている。文末に白話小説や戯曲によく見られる語気助詞「則箇」は「～なせへ」に該当させていると考えられる。

「こんや」は、時間を表す副詞「今夜」で示されている。

表８　『和唐珍解』と『唐訳便覧』

	唐訳便覧	日本語	和唐珍解	日本語
1	煮了吃更妙。燒的滋味不好。	ニテクエバイカフヨイ。ヤイタノハプウミガワルヒ	**牛兒**煮了喫更妙。燒的滋味不好。	うしはにたからみやうだがやいたのはふうみがいかんよ
2	不喜歡鬧動只喜歡閑靜。	ニギヤカナフハスカヌ。シツガナフガスイタ	**俺的性兒**不喜歡鬧動只喜歡閑靜。	おれはうまれついてそう／＼しいとはうつきみだしづかなとがい、よ
3	真正多謝得緊。	ベツメカタシゲナイ	**多虧得名妓**真正多謝得緊。	おかげでよいちよらうをかつてべつしてかたじけない
4	差不多好了。	大方ヨイ	**今夜**差不多好了。	おおかたこんやはよかろうよ
5	最有趣請看一看。	ヅントオモシロイ。ゴケンブツナサレイ	**這技**最有趣。請看一看。	づんとおもしろいごけんぶつなされ
6	甚麼價錢賤則我也要買。	イカホドノ子ダンゾ。ヤスクバ。我モカヒタイ	**這個頭巾**什麼價。錢賤則我也要買。	このづきんねだんはいくらだやすくばおれがかいたい
7	好笑得緊。	オカシキフ	**此妓**好笑得緊。	このこがおかしいから
8	踉踉蹌蹌的去了。	ヨロ／＼トシテ。アルキユク	**這廁**[13] 踉踉蹌蹌的去了也。	よろ／＼していつた
9	酒醒了些。	ヨイガチトサメタ	**阿阿**酒醒了些。	あ、よいがちとさめた
10	有件要相托之事。	タノミタイフカアル	**是**有件要相托之事。	たのみたいことがある
11	齷齪得緊。	キタナイ	**是**齷齪得緊。	これはきたない／＼
12	透亮了好看。	スキトヲリテ。ミゴト也	**硝子**透亮了好看。	びいどろがすきどほつてみごとだ

①　単一の成分の増加

表８で示したように、作者は日本語表現に基づいて、それに対応する中国語文の主語や語気助詞、動詞を付け足し、文を構成している。１では、「牛兒」を使って、煮る材料を説明している。９では、「阿阿」と「あ、」が対応している。10で「是」を足し、肯定文を構成する。12では「びいどろ」を「硝子」という語で補っている。

②　複数の成分の増加

主に日本語文の主語や副詞を添加している。２では、「おれはうまれついて」という日本語文を人称代名詞「「俺」＋所有を表す「的」＋名詞「性兒」」で表している。例５、７、８では指示代名詞「這」、「此」と名詞の組み合わせで、文の主語で使われている。「這廁」は宋元明清時代の話し言葉の上に形成された書き言葉であり、白話小説によく出ている、「こやつ」の意味であると思われる。日本語は省略している。６では「このづきん」を、指示代名詞「「這」＋量詞「個」＋名詞「頭巾」」の組み合わせで表している。

上に示したように、『和唐珍解』の語句は、特に『唐話纂要』と『唐訳便覧』からより多く選ばれてい

13）代名詞「這廁」の異表記として扱う。本論では中国語の表現の異表記は区別することなく扱い、すべて同一のものと見なす。これにより多少の情報を失うことになるが、手書きの筆記体ではしばしば異表記間の関係が不明瞭で、区別しようにも限界があるのである。

ることを確認することができた。一方、岡島冠山の唐話資料の言葉をそのまま取り込んでも、文を構成できない場合がある。例えば「一味裡」のように、『唐話纂要』の言葉を使っても、文を構成することができない場合には、新しい構成要素を加え、文を作る必要がある。唐来参和は日本語に合わせて、『唐話纂要』と『唐訳便覧』に語句を付け足しており白話文を作る能力を持っていた可能性があると思われる。

4

また、次のように、唐来参和が意識的に書き換えた可能性が高いものがある。（書き換えられたところをゴシックで示す。）

表９　『和唐珍解』と『唐話纂要』

	唐話纂要	日本語	和唐珍解	日本語
1	我是淺量。	我ハゲコ	**他**是淺量。	かれはげこだ
2	迎接他。	彼ヲ迎フ	**明天再来**迎接。	あしたまたおむかひにまいらう
3	休要炒。	ジヤマニナルナ	休要**囉嗦**。 休要**跑脱**。	やかましくいふな にげるなにげるな
4	多虧他。	カレガオカケジヤ	多虧**得名妓**。	おかげでよいちよらうをかつて
5	不可插嘴。	サシデグチヲスルナ	**藤哥**不可插**口**。	とうこう／＼さしぐちはよしやれ
6	備細説知我。	我ニ。委細ニ。云キカセヨ	備細説知他説道。	いさいにはなしたらかれがいふには

１では酒を飲めない人を一人称「我」から、三人称「他」に変えた。２は「あしたまたおむかひにまいらう」という日本語に合わせて、迎えるの目的語が省略され、時間名詞「明天」が加えられている。３では、同動詞の禁止形「休要」は「～をするな」の意味である。「休要囉嗦」は「やかましくいふな」、「休要跑脱」は「にげるなにげるな」という日本語文に対応している。４では、『唐話纂要』原文は「「多虧」＋感謝の気持ちを表す対象目的語三人称「他」」の構文であるが、『和唐珍解』では、「多虧得名妓真正多謝得緊」であり、「おかげでよいちよらうをかつてべつしてかたじけない」という日本語文に対応している。話し手の李滔天は、聞き手の和田が紹介してくれた遊女を好んでいるので、和田に感謝の気持ちを伝える場面である。「多虧」も明清白話小説によく出ている言葉である。例えば、『西遊記』[14] には「多虧了正直的徐茂公、理烈的魏丞相、有膽量的秦瓊、忒猛撞的敬德，上前來扶著棺材」、「只因縱火燒了殿上明珠，被他父親告了忤逆，身犯天條，多虧觀音菩薩救了他的性命」、「多虧孫長老法力無邊，降了黄袍怪，救奴回國」などの用例がある。これらの用例では、「多虧」の後に目的語を伴っている。また、「多虧得名妓真正多謝得緊」に対応する日本語文から見れば、この文は必要な構成要素が不足しており、感謝する相手である二人称の「你」が欠けていると思われる。完全な文は「多虧（你）／得名妓／真正多謝得緊」ではないかだろうか。５では、「とうこう／＼」という日本語文に対応して、中国語「藤哥」を加えている。

14）（明）呉承恩撰『李卓吾先生批評西遊記』（中州書畫社、1983年）

表10 『和唐珍解』と『唐訳便覧』

	唐訳便覧	日本語	和唐珍解	日本語
1	体物事動不動説呆話。	アハウ者ガヤヽモスレバ。タハケヲ云フ	**本**物事動不動**要癡呆**。	あほうものがやヽもすればたはけをつくす
2	請息怒我的不是了。	ハラタテヲヤメ給へ。私ガムチヤウハフニテ侯フ	請息怒**他**的不是了。	はらたてをやめ給へかれがぶてうほうでござる
3	快些回来。不可路上住脚。	イソイデカエレ。ミチクサヲスルナ	快些**去了**。不可路上住脚。	いそひでかへれみちくさをくふなよ
4	我等幾個人老早到這裏等候先生先生却如何恁地来遅了。	ワレラドモ数人ハ。トク忝テ。先生ヲ相待候フ。先生ハ何ユヘ此ノ如ク遅ク来王フヤ	我等**兩人**老早到這裏。等候先生。先生却如何恁地来遅了。	われらともりやうにんはとくまいりてせんせいをまちせたせんせいはなぜそんなにおそくおいでなされた

２では、「はらたてをやめ給へかれがぶてうほうでござる」という日本語文の「かれ」に対応し、一人称の「我」から三人称の「他」に変えられている。３では、日本語の「かへれ」に対応し、原文の「回来」から、「去了」に書き換えられている。４は、日本語の「りやうにん」に対応し、「幾個」から、「兩」に書き換えられた。

おわりに

『和唐珍解』における中国語で表記された台詞271個のうち約136個は岡島冠山の唐話資料から取られている可能性が高い。

岡島冠山の資料と、語句が一致するもの、語句の減少が見られるもの、語句の増加が見られるもの、語句が異なるものの数量は、それぞれ表11に示すとおりである。

表11

	唐話纂要	唐話便用	唐訳便覧	唐音雅俗語類
一致	41	5	41	0
減少	2	0	6	1
増加	18	0	12	0
異なる	6	0	4	0
総計	67	5	63	1

岡島冠山の唐話資料は『和唐珍解』の完成には不可欠な存在である。借用された語句と語釈の多さから見れば、『唐話便用』、『唐音雅俗語類』より、『唐話纂要』と『唐訳便覧』との関連性がより強い。

また、全体から見れば、作者が冠山の唐話資料を利用する時に、『和唐珍解』の日本語の部分に合わせるように付け足したり、合わせるように省略したりしていると言えるだろう。その上で、岡島冠山の唐話を省略にせよ、付け足しにせよ、唐話の元々の意味がわからないと、その作業は不可能であろう。唐来参和は唐話の知識を持っていたと考えられる。

一方、岡島冠山の唐話が、江戸時代に大きな人気を集めていた文学ジャンルの一つである洒落本に取り入れたことよって、唐話がより多くの日本人の目に触れる機会が増えたとのではないだろうか。